

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立桜台小学校

教育目標		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進 ②豊かな人間性を育てる心の教育の推進 ③健やかな体の育成と健全な食生活の推進 ④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実 ⑤教育環境の整備・業務改善と学校安全の充実						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。</li> <li>・「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に2回程度のさくらタイム(放課後学習)を実施する。</li> <li>・朝学習で、定期的に学力補充を進める。</li> <li>・ペア学級での教えあい活動を実施する。</li> <li>・漢字小テスト、算数タイムを定期的実施する。</li> <li>・授業力を高めるため、授業を公開し、授業研究を行う。校内研修(さくらカフェ)を定期的に行い、指導力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程部を中心に朝学習・えんぴつタイム・さくらタイムを計画的に実施し、学力補充に努める。</li> <li>・学期に一度行う。</li> <li>・漢字小テスト、算数タイムを年間30回以上する。</li> <li>・年3回の校内研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習・えんぴつタイム・算数タイム等やさくらタイム(放課後学習)をとおして、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。</li> <li>・算数の学習で自発的に参加したい児童も含めながら、月1回学力保障に努めた。</li> <li>・コロナのため実施できなかった。</li> <li>・年4回の校内研究、および、夏季研修を実施し、教職員の授業力向上を推進できた。</li> <li>・数学的な見方・考え方を育てる第一歩として、子どもの考えに寄り添い、授業を進めることができた。</li> <li>・「めあて」「まとめ」「ふり返し」を意識した授業展開に加え、授業の山場を意識して授業を行った。</li> <li>・校外より様々な立場の講師を招き、講話を拝聴し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、朝学習・えんぴつタイム・算数タイム等を徹底し、さくらタイムも継続させる。</li> <li>・間違えた問題を確認したり、解き直したりする等、学習に不安のある児童と向き合う時間を増やしていく。</li> <li>・ペア活動を月1回実施する。</li> <li>・年度当初も含め、全職員で共通理解ができる場の設定を工夫する。</li> <li>・引き続き、数学的な見方・考え方を獲得する場面での話し合いを取り入れた授業を行う。</li> <li>・これまでの成果をもとに、授業の山場を含めた、深い学びの実現を目指した研究を進める。</li> <li>・多様な意見をまとめながら、本校の児童の実態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAの学力向上委員会として土曜スクールを実施しているが、今後オンラインが活用できないか考えている。</li> <li>・様々な施策がよく考えられている。コロナ禍でもよくやっている。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。</li> <li>・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。</li> <li>・単元の中で、ペアや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場面を設定する。</li> <li>・朝学習での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、年1回の「読書週間」の推進、学級文庫の充実により読書習慣作りを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや授業の振り返りの記述、発表の内容などに、考えの深まりが見られる。</li> <li>・授業の中で、ペアトークを取り入れる。</li> <li>・児童アンケート「本を読んでいる」の回答で、週1時間以上読んでいると回答する割合が80%以上になる。また、保護者アンケートの「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が80%以上になる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや新聞などの書く場面を発達段階に応じて授業に取り入れることができた。</li> <li>・思考を深めるためには、どこでペア活動を取り入れることが有効なのかを考え授業に取り組むことができた。</li> <li>・読書週間、朝読書、市の図書館からの貸し出しなど読書指導に努めた結果、本を好きな子どもは多い。しかし、1週間に1時間以上本を読んでいると回答した子どもは40%にとどまっている。また、保護者も「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が63%である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語での発表を良しとせず、主張・理由・根拠を大切に発表を今後も学校全体で取り組んでいく。</li> <li>・授業を聞きっぱなしで終わらせず、発言する機会を保證することで、児童のより確かな理解へとつなげる。</li> <li>・朝読書の充実、読書週間の増加、週末に読書の宿題を出すなど、読書の習慣作りに努めていく。</li> <li>・学期ごとに読書週間のねらいをしぼり、ゆったり取り組めるよう読書月間も取り入れる。</li> <li>・図書館からの配架の充実を図るとともに、学期ごとに学年で学級文庫の交換を呼びかける。</li> <li>・学校での読書の習慣を家庭でも継続できるように、読書週間などを通して家庭読書を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアトークは非常によい取り組みである。今後に期待している。</li> </ul>
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。</li> <li>・児童の情報活用能力の育成を図る。</li> <li>・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板やタブレット等のICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。</li> <li>・タブレットの操作等において、情報活用能力を高める。</li> <li>・さくらノートの活用や読書を含め、家庭学習の目標時間低学年30分、中学年60分、高学年90分を達成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>・電子黒板タブレット等を各教科の中で効果的に活用する。</li> <li>・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は教え方にいろいろ工夫している」と答えた児童は90%を超えている。</li> <li>・通常の授業及び臨時休校でのオンライン授業等において、タブレットで活用することができる。</li> <li>・情報活用能力(情報モラル)について課題がある。</li> <li>・家庭学習については、低・中学年は目標時間を達成しているが、高学年においては目標時間に満たず、課題の出し方や家庭への呼びかけに課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、効果的にタブレットを活用する研究を進めていく。</li> <li>・機器の操作だけでなく、インターネットやSNSの使い方等、情報モラルについても指導していく。</li> <li>・家庭学習については、懇談などを通じ、取り組む良さや必要性を伝えていく。また、課題内容の充実に努め、保護者には、引き続き、サインの徹底を呼びかけていく。</li> <li>・設定時間に適した内容の課題を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用能力は、時代に求められた能力である。今後も進めていってほしい。</li> <li>・ICTの活用で、学習意欲が高まる取り組みを行ってほしい。</li> </ul>

豊かな心・健やかな体	不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童の未然防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への粘り強い働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート「1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・児童アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」と回答した割合が85%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行うと回答した教職員が90%を越えている。</li> <li>・不登校対策支援員の配置を受け、別室指導の充実を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭とのつながりを深めるとともに、ケース会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を見極める。</li> <li>・不登校対応マニュアルを作成し、個に応じた具体的な対応を行う。</li> <li>・不登校児童への組織的対応について今後も考えていく。</li> <li>・別室指導の一層の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の不登校対策支援員の加配はありがたい。</li> </ul>
	豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業をはじめ、いろいろな場で違いを大切に児童理解に努め、違いを認めあえる子どもを育てる。</li> <li>・インクルーシブ教育の推進に努める。</li> <li>・児童理解に基づく個に応じた合理的配慮の提供と基礎的環境整備を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期はじめの月を「あいさつ月間」と位置づけあいさつ運動に取り組む。</li> <li>・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。</li> <li>・支援についてチーム(学年・学校)で対応するために、子どもの情報交換をこまめに行う。</li> <li>・毎月の部会で、児童の実態を吸い上げ、支援方法・体制を検討する。</li> <li>・児童理解に基づく個に応じた合理的配慮の提供と基礎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・児童アンケートにおいて「命をたいせつにすることやいじめやいたずらをされた人の気持ちを考えていますか」と回答する割合が85%以上になる。</li> <li>・教職員アンケートにおいて「インクルーシブ教育について、職員間で共通理解し、各自の立場で推進している。」と回答した割合が80%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや他人への思いやりについても教えてもらっている」と答えた児童は90%以上であった。</li> <li>・「先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答する割合が87%であった。代表委員会が積極的にあいさつ運動を行った。また、管理職や専科の教職員が登下校時にあいさつ運動を毎日行った。</li> <li>・「命を大切にすること、いじめやいたずらをされた人の気持ちを考えています」と回答した児童は90%以上であった。</li> <li>・特別支援教育部を中心に、インクルーシブ教育を推進し教職員アンケートで「共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合は80%を上回った。</li> <li>・毎月の特別支援教育部会で、各学年から報告された児童の実態を吸い上げ、共通理解を図ることができた。</li> <li>・特別支援学級の自立活動の学習の様子を便りに載せて発行してもらい、全教職員にその様子がよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、あいさつの大切さを提示し、地域にもあいさつができるよう推進に努める。</li> <li>・アンケートの結果や児童の様子を注意深く観察して、児童理解に努める</li> <li>・ICT活用を推進するとともに、情報モラル教育を推進する。</li> <li>・引き続き、毎月児童の様子を共通理解する場を設ける。</li> <li>・個別の指導計画の書式をより記入しやすく活用しやすいものに変更していく。</li> <li>・児童の報告は必要に応じて職員会議後の時間を利用し、全職員に共通理解を図る。</li> <li>・特別支援教育研修会で支援学級での授業の様子をテーマに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの取り組みを進めてほしい。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。</li> <li>・体を動かすことの楽しさ及び仲間とかかわり合うことの楽しさを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。</li> <li>・冬期の業間休みに週一回耐寒運動を実施する。</li> <li>・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期の業間休みの耐寒運動の実施計画を立て、行う。</li> <li>・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答する割合が80%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストの結果、体力と敏捷性が全国平均を下回った。</li> <li>・「運動能力や体力の向上を図り、粘り強い児童の育成に努めた」と回答する教職員は85%を下回った。</li> <li>・児童は、進んで鉄棒週間・縄跳び月間に参加することができた。</li> <li>・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答した割合は80%以上であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中にサーキット運動を取り入れていくことを進めていく。</li> <li>・体育により親しめるような行事を行っていく。</li> <li>・コロナ禍のため、研修等を行うことは難しいが、サーキット運動を取り入れるなどの授業改善を行っていけるよう職員に伝えていく。</li> <li>・児童の意欲が継続するように、記録の掲示・発表をしっかりと行っていく。</li> <li>・外遊びに親しむ態度を育てるため、体育行事などを積極的に行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も現在の取り組みを継続させてほしい。</li> </ul>

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な機会を通して、積極的に学校情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。</li> <li>・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。</li> <li>・懇談時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを月1回以上発行する。</li> <li>・自校のホームページを定期的に更新する。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が90%以上となる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPや学校だより、学年だより等を通し、積極的に情報発信ができた。</li> <li>・「学校はHPや学校だより、学年だより等を通し、情報を発信している」と回答した保護者は90%を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに導入されたGoogleclass room等のシステムを積極的に活用していく。</li> <li>・幅広い視点で発信することで、保護者の関心を高めたい。</li> <li>・今後も継続してホームページの更新を続けていく。</li> <li>・保護者と日頃から連携を密にしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どれくらいの保護者が登録できているのか把握する必要がある。</li> <li>・よいシステムなので、うまく運用して欲しい。</li> </ul>
	安全安心な学校作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの危機対応能力や災害に応じた対応力を育てる。</li> <li>・学習環境の管理・整備を行い、安全な学校生活が送れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。(年2回)</li> <li>・防犯訓練(不審者)を実施する。(年1回)</li> <li>・引き渡し訓練を実施する。(2年に1回・昨年度実施)</li> <li>・安全点検を行う。(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答する割合が80%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」「子どもの安全に関する適切な指導をしている」と回答した保護者は98%であった。</li> <li>・年度当初、避難経路をクラスに掲示する際に、不審者来校時の放送についても児童に周知徹底させた。</li> <li>・コロナのため今年度も引き渡し訓練は実施できず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの状況をみながら、なるべく早い時期に引き渡し訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者対応のシステムが構築されていると感じた。</li> </ul>

#### 学校関係者評価総括

- ・コロナ禍でも、しっかりと教育活動が行えている。
- ・保護者からの評価も高い。

#### 次年度に向けた重点的な改善点

- ・引き続き学力向上が課題である。
- ・以前より、家庭学習、家庭での読書については、学校だけでなく地域、保護者の課題である。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った